

『科学技術基本政策策定の 基本方針』について

平成17年6月16日

総合科学技術会議

基本政策専門調査会長

第1期、第2期基本計画を通じ、日本の科学技術の基礎固めが進む。

- 研究水準は着実に向上、世界をリードする研究成果が出現。

科学技術投資は、成果の結実までに多年度を要するが、公的支援により、我が国独自の研究成果が大きく育ち、新たに数千億円以上の市場を形成しつつあるものもあり。
米国に次ぎ、世界第2位の論文発表数
5年前と比較して、多くの分野で、対米・対EUの研究開発水準が向上

- 産学官連携や大学・研究機関の改革が進展。

産学共同研究件数及び大学発ベンチャー企業数が増加。
国立大学や国立試験研究機関等の法人化

一方で、世界各国は優れた頭脳をどのようにして育てるか、で激しく競い始めた。

- 欧米のみならず、中国、韓国も含めた「知の大競争」が激化。
- 環境と経済の両立や少子高齢化のもたらす課題克服などが急務。

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

国民に分かりやすく、社会に役立つ科学技術

6つの政策目標（次ページ参照）を明示し、科学技術が何をを目指すのか、社会・国民への貢献を明確化し、それを目指して政策を展開していく。

国民にも政策目標の達成状況を説明し、科学技術の理解と支持を得、国民とともに科学技術を推進。

科学技術により切り拓く 『6つの政策目標』

<目標1>

飛躍知の発見・発明

~ 未来を切り拓く
多様な知識の蓄積・創造

<目標3>

環境と経済の両立

~ 環境と経済を両立し
持続可能な発展を実現

<目標5>

生涯はつらつ生活

~ 子供から高齢者まで
健康な日本を実現

<理念1>

**人類の英知
を生む**

<理念2>

**国力の源泉
を創る**

<理念3>

**健康と安全
を守る**

<目標2>

科学技術の限界突破

~ 人類の夢への
挑戦と実現

<目標4>

イノベーター日本

~ 革新を続ける強靱な
経済・産業を実現

<目標6>

安全が誇りとなる国

~ 世界一安全な国・
日本を実現

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

メリハリをつけて投資し、資金の有効利用を徹底する

戦略的重点化の強化

- 多様な知と革新をもたらす基礎研究を推進
- 課題解決に貢献の大きい重点4分野（ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料）も、きめ細かく重点化。

「安全と安心」への科学技術の貢献を高める。

「国の発展の基幹としての科学技術」についても、選択と集中を基本として、今後、更に掘り下げた検討を行う。

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

研究者がいきいきと研究し、新しい発想が次々と生まれる

競争的研究環境の醸成

- 競争的研究資金の拡充と制度改革
- 競争的資金と基盤的資金の適切なバランス

科学技術システム改革の推進

- 評価システムの改革、大学改革等の更なる進展
- 産学官連携の推進、地域科学技術の振興
- 科学技術基盤整備、知的財産による知的創造サイクル等

第3期科学技術基本計画は何を目指すのか

将来を支える人材を大切にす

検討の基本姿勢： 「モノから人へ」
「機関における個人の重視」

科学技術を担う人材の育成・活躍の促進

- 世界的に活躍する研究者・技術者の育成・確保
- 若手研究者が能力発揮できる環境づくり
- 女性研究者の育成、活躍できる環境づくり
- 外国人研究者の受入れの促進
- 技術経営人材、ものづくり人材などの育成・確保
- 子どもの夢を育み、力を伸ばす環境づくり 等